



# Cisco AnyConnect カスタマーエクスペリエンス フィードバック モジュール



(注) デフォルトでは、プライベート データおよび企業データが収集されます。

カスタマーエクスペリエンス フィードバック (CEF) モジュールにより、カスタマーが使用し、有効にしたモジュールおよび機能の情報を取得できます。この情報によりユーザエクスペリエンスを把握できるため、シスコは AnyConnect の品質、信頼性、パフォーマンス、ユーザエクスペリエンスを継続して改善できます。

情報の収集および使用の詳細については、「[Cisco Online Privacy Statement Highlights](#)」ページからアクセスできる、「[AnyConnect Secure Mobility Client Supplement](#)」を参照してください。すべてのデータは匿名で収集され、個人を特定できるデータは含まれません。また、データは安全に送信されます。

シスコは、次のタイプのデータを収集します。

- ユーザビリティ データ：詳細については、プライバシー ポリシーを参照してください。このデータは、毎月一度収集され送信されます。
- Web 脅威データ：脅威が報告されるたびに送信されます。
- クラッシュ レポート：AnyConnect が生成したクラッシュ ダンプ ファイルが 24 時間おきにチェックされ、収集され、カスタマーエクスペリエンス フィードバック サーバに送信されます。

カスタマーエクスペリエンス フィードバック モジュールの主なコンポーネントは次のとおりです。

- フィードバック モジュール：AnyConnect のソフトウェア コンポーネントで、情報を収集し定期的にサーバに送信します。
- Cisco フィードバック サーバ：カスタマーエクスペリエンス フィードバック データを収集し、未処理形式で一時的なストレージに保存する、シスコが所有するクラウドインフラストラクチャです。

- [カスタマー エクスペリエンス フィードバックの設定 \(2 ページ\)](#)

## カスタマー エクスペリエンス フィードバックの設定

AnyConnect カスタマー エクスペリエンス フィードバック モジュールは AnyConnect とともに展開され、デフォルトで有効になっています。カスタマー エクスペリエンス フィードバック プロファイルを作成することで、エクスペリエンスフィードバックから完全に除外するなど、送信されるフィードバックの内容を変更できます。この方法は、フィードバック モジュールを無効にする場合に適した方法ですが、AnyConnect の展開中にフィードバック モジュールを完全に排除することもできます。

### 始める前に

カスタマー エクスペリエンス フィードバック モジュールは自動的に有効になります。

### 手順

- 
- ステップ 1** スタンドアロンのカスタマー エクスペリエンス フィードバック プロファイル エディタまたは ASDM を開きます。[設定 (Configuration)] > [リモート アクセス VPN (Remote Access VPN)] > [ネットワーク (クライアント) アクセス (Network (Client) Access)] > [AnyConnect クライアント プロファイル (AnyConnect Client Profile)] に移動します。
  - ステップ 2** [フィードバック サービス プロファイル (Feedback Service Profile)] のプロファイルの用途で AnyConnect クライアント プロファイルを作成します。
  - ステップ 3** フィードバックを提供しない場合は、[カスタマー エクスペリエンス フィードバック サービスの有効化 (Enable customer Experience Feedback Service)] をオフにします。  
フィードバックは、インストール後にいつでも無効にできます。
  - ステップ 4** AnyConnect によって生成されたクラッシュ レポートを送信しない場合は、[クラッシュ レポートを含める (Include Crash Report)] をオフにします。  
デフォルトでは、クラッシュ レポートが含まれます。
  - ステップ 5** 任意のカスタマー キーまたはカスタマー ID を入力します。  
この ID により、シスコはどの組織からの情報であるかを識別できます。
-